

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100140		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム フロール(ユニットA、ユニットB)		
所在地	栃木県矢板市鹿島町989-1		
自己評価作成日	2019年10月25日	評価結果市町村受理日	2020年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	令和1年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティア(山和会・工作・ハーモニカ手品・口笛など)の受け入れや併設のたちばなの合同夏祭りには、ご家族様・地域住民及び矢板小学校の学童の皆様を招待してご利用者の交流を深めております。食事は献立を決めて手作りで提供しています。また、天気の良い日には、駐車場まで散歩に出掛けて日光浴等を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」という理念の下、職員は利用者のペースに合わせ、ゆっくりと日々の生活を楽しみ喜びを共有できるように努めている。また、利用者の思いや意向を把握して暮らしに寄り添うために、家族とのコミュニケーションを大事にしたいと考えている。食事は三食手作りで季節の素材を使い利用者の好みや状態に合わせて提供している。おいしそうに食べる利用者の傍でそっと支援介助する職員の姿があり、利用者が安心して過ごしている様子が窺える。事業所は車いすのまま使えるトイレや洗面台、三方介助が出来る浴槽、超低床ベッドなど最新の設備を設置しており、利用者がより安全に快適に生活できるように配慮されている。併設する小規模多機能型居宅介護事業所「たちばな」と合同で開催される夏祭りでは、利用者や家族以外に、地域住民や学童保育の児童を招待したり、多彩なボランティアを受け入れるなど地域とのつながりを大切にしている。事業所は福祉避難所として指定されており、地域に貢献したいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」その人らしさを大切に生活支援に努め職員各自が共有に努め実践している。	法人の理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」が事業所の理念となっている。職員は利用者のペースに合わせ、ゆっくりと日々の生活を楽しみ、喜びを共有できるよう努めている。新人の職員には管理者が理念について説明し、理解と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	たちばなと合同行事(夏祭り)や地域のボランティア及び学童の児童と交流を図っている。	自治会に加入し、事業所の行事等を回覧板で地域の住民に知らせ、参加を呼び掛けている。学童保育の児童とは夏祭りで一緒に踊ったり、歌やゲームを楽しんでいる。踊りや手品、工作等、多様なボランティアを受け入れており、今年度の敬老会では落語が披露され利用者に喜ばれた。今年のクリスマス会にはエレクトーン演奏のボランティアの来所が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティア及び矢板中学生の職場体験の受け入れで認知症の方々に接する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度に市職員及び包括センター職員・地域代表の方々・ご利用者様ご家族様からご意見などをいただきサービスの向上に努めている。	市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表といった人々が参加し、開催されている。事業所からの利用状況や行事の報告後、参加者から行事の内容についての質問や地域の高齢者に関する相談があったり、地域の情報が伝えられるなど、有意義な会議となっている。今年度も身体拘束等適正化の指針に基づき対策を検討する委員会を同時に開催し、状況報告がなされた。	運営推進会議への参加が一家族に限られ、開催をすべての家族に伝えていない現状がある。参加が難しい家族にも連絡をし、会議内容を伝える努力を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議及び市内のグループホーム交流会などで情報交換を行っている。	市役所は事業所から近く、相談や情報交換がスムーズに行われている。市の職員は、事業所の運営推進会議や避難訓練に参加するほか、2か月に1度の市内のグループホーム交流会にも参加し、市で持っている情報を発信したり、助言をするなど、事業所と良好な協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を運営推進会議の時や介護職員と状況に応じて話し合いをしている。	職員は、利用者一人ひとりをよく観察し、利用者の立場に立ってみることで身体拘束は防げると考え、実践している。気付きノートで情報の共有を図り、人感センサーの設置、超低床ベッドやマットの利用で夜間の転倒防止に努めている。帰宅願望のある利用者には一緒に外を歩くなど、行動を制限しない自然な対応を心掛けている。月1回の学習会で身体拘束についても取り上げ、資料は参加できなかった職員に回覧している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。ご利用者様の気持ちを受け入れ職員間でカンファレンスをしながら虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長及び管理者が中心となり勉強会を計画して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び計画作成担当者が中心にご家族様の不安・疑問点などの説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会に来所時にご家族様からの意見要望については、いつでも話していただけるよう心掛けている。	職員は、行事に参加したり、面会や毎月の支払いのため来所する家族に積極的に声をかけ、意見や要望があれば聞き取るよう努めているが、利用者や家族から意見が出ることはほとんどない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営等に関する職員からの意見や提案については、随時その機会を設けており反映のための努力をしている。	昨年度はあまり開くことができなかった定例会議を、今年度は毎月開催し、職員と意見交換を行っている。参加できなかった職員には会議録を回覧して、情報の共有を図っている。管理者は職員の様子を見ながら、必要に応じて個人面談も行い、個々の悩みや不安に対してアドバイスを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革や介護職員等特定処遇改善加算などを参考に給与水準や労働時間などで条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会及び法人内の合同勉強会を受けて学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢板市内のグループホーム交流会に参加して意見交換や勉強会を計画して当番制で対応している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集を家族や担当ケアマネ職員の方々からの聞き取り困っていること不安に耳を傾け安心して生活できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議等より話に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議の中で必要としている支援を見つけ出し支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	礼儀・言葉遣い・挨拶・尊敬などを忘れず一方的な立場にならないよう共に生活をしていく家族のような存在になれるよう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族と連絡を取り共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親族・知人がいつでも面会に来られるようにしている。ご家族の理解がある方は、知人等との外出も行っている。また、面会・外出等ご家族本人の希望に沿ったようにする。	家族や親族が市内在住の場合が多く、面会の回数は多い。利用者は面会や病院への通院の帰りに、家族とともに買い物をしたり、外食を楽しんだりしている。友人や知人、兄弟の面会の際、外へ散歩に出る人もいる。以前はなじみの理髪店に通っている利用者がいたが、家族の希望で現在は全員施設に出張してくる美容師に散髪を頼んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが、近くの席になるように配慮している。また、ホールで過ごされる時はご利用者様との間に入り平等に孤立しないように言葉かけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方は、特養入居や入院(療養棟)の方が多く相談される機会がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話・仕草表情での把握に努めている。ご家族からの希望も聴いている。	会話ができる利用者が多いので、職員は日々の生活の中の何気ない会話から、食べたいものや行きたい場所など、利用者の気持ちを汲み取るよう努めている。また、帰宅願望が強くなった場合、一緒に施設周辺を歩くなど、利用者の気持ちに沿った支援を心掛けている。利用者には担当職員が決まっており、朝の引継ぎや申し送りでそれぞれの様子を報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様・担当ケアマネより情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状況を把握するために個人の経過記録・申し送りノート・業務日誌を活用して情報を共有している。毎日のバイタル測定・排泄状況も確認し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンス等で話し合いそれぞれの意見を反映し介護計画を作成している。	利用者や家族から聞き取った情報をもとに計画作成担当者が立てたケアプランを、入所前または当日に家族に説明し確認してもらっている。1か月後にモニタリングを行い、その後は半年ごとにモニタリングを行っている。プランを立てる際は、家族と話し合いを持ち、看護師のアドバイスや医療機関からのデータも反映させている。利用者の担当を決め、気付きノートで情報を共有しながら、プランの見直しが必要になった時は、サービス担当者会議を開き、検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・申し送り等でご利用者様の様子や状態変化の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族様が様々な要望や意見が言える雰囲気作りを第一に考え常に柔軟な支援を心掛けている。特に年末年始の自宅への外泊・外出なども含め柔軟な対応を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域の方々との交流で楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様にご本人の状態を報告し適切な受診が受けられるよう支援を行っている。必要に応じてバイタル表等を渡している。	利用者は家族付き添いでかかりつけ医を受診している。受診前に職員が、利用者の日頃の様子や体調の変化をバイタル表や口頭で家族に伝え、受診後は管理者、看護師などが受診内容を家族から聞き取り、申し送りノートに記入して全職員で情報を共有している。利用者の受診結果について職員が直接かかりつけ医に相談することもある。家族からの希望があれば、病院で家族と待ち合わせをする形で送迎を行っている。夜間など緊急時には管理者や職員である看護師に連絡し速やかに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調面や気づき・情報などを出勤時に相談をしたり電話にて指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での状況が分かるよう情報提供書を提出し入院中はMSWと情報交換を取り合い退院前には、ご本人様に面会をしたりカンファレンスをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に施設での対応可能な状況を説明して主治医とご家族様で相談をしている。	事業所では看取りの体制は出来ていないが、利用者や家族の意向や協力があれば、訪問診療や訪問看護を利用できる環境を整えれば、利用者にとって何が最善かを見極めながら対応したいと考えている。訪問看護師による点滴や酸素吸入の事例があり、職員はターミナルケアの研修を受けている。開所して間もないこともあり、これまで看取りを行った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに従って報連相を行い普通救命講習を受けてご利用者様の初期対応を実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定・火事・地震等の災害を想定した訓練を年2回実施しており地域の方々等に参加を呼びかけている。	避難訓練の計画書を作り、役割分担し、事前打ち合わせをしてから訓練に臨んでいる。運営推進会議メンバーには、お便りで避難訓練時の協力を依頼している。避難訓練後、消防署の検証を基に定例会で反省と計画の見直しを行っている。事業所にはパッケージ型消火設備(屋内消火栓)が設置されている。また事業所は災害時の福祉避難所として指定されており、非常時に要配慮者を受け入れることで地域に貢献したいと考えている。台風接近に備えてすぐ食べられる食品の備蓄を多めにするなどの対策をとった。	職員全員が通報の仕方と消火器やパッケージ消火設備の使い方を熟知し、スムーズに避難できるよう訓練を繰り返すとともに、利用者の状態に応じた避難方法を自信を持って行うことができるよう訓練と努力を重ねてほしい。また、近隣住民の協力が得られるように働きかけを続けてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに対し常に意志と尊厳を大切に優しく敬意のある言動で対応しており個人情報の管理もしている。	職員は利用者に対し、年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないように配慮している。トイレ誘導時には耳元で小さな声で話すなど気配りをしている。また、入浴や排泄の際に異性介助をしてよいか直接確認したり、利用者の様子を見て判断したりしている。個人情報の書類は鍵のかかる事務所の棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの意志表示や決定出来るような声かけをしたり答えを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気分や体調などに配慮しながらご利用者様の希望を第一に考えたうえで生活のペースを乱したり押し付けにならないよう出来る限り個別性重視の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様により化粧水をつけたり入浴時の着替えの服を選んだり、ご自分の髪をとかしていただいたり身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用した献立や行事食を作ったりご利用者様と一緒におやつ作りもしている。また、食後には食器を拭いている。	職員が三食の献立を作成しリビングのキッチンで調理している。季節の素材を使い利用者の咀嚼力に合わせて形態を変えて提供している。また、利用者の好き嫌いを把握し個々に対応している。おいしそうに食べる利用者の傍でそっと支援介助する職員の姿があり、利用者が安心して過ごしている様子が窺える。利用者もおやつや誕生日のケーキ、お好み海鮮丼などを一緒に作って楽しんでいる。テーブルふきや茶わんふきなどをできる範囲でお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録しており年齢や疾患に合わせて糖分や塩分に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施ならびに口腔内の確認や仕上げの手伝いや見守りなどご利用者様に合った支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の身体状況などを考えながら適宜言葉かけをしたり本人からの訴えに応じて誘導をしている。	職員は利用者それぞれの排泄パターンやトイレサインを把握し、声掛け誘導することでトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間のトイレ対応は、ふらついて転倒の危険がある人には人感センサーや超低床ベッドを使用し、夜間のみリハビリパンツからオムツに変えたり個々に対応している。尿量や色もチェックし水分量の補給の目安にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や適度な運動をしたり食事にも気を配り朝食には、必ずヨーグルトを出している。または、ご利用者様に合わせた内服薬等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様は、週3回の入浴がありますが臨機応変な対応をしており季節を感じていただくために菖蒲湯や柚子湯なども実施している。	入浴は週3回、午前中に行っている。利用者や職員にとって使いやすい三方介助が出来る浴槽で、利用者の安全に気をつけながら入浴支援を行っている。入浴は一人で会話を楽しんだり体の様子を観察できる大事な時間となっている。利用者の希望で好みのシャンプーを使う人もいる。重度化した場合、併設されている小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴槽が利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調などを考慮して休んでいただいたり日中は、軽い運動をしていただき夜間は、良く眠れるように支援している。また、巡視の時にも足音や雑音なども気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の誤薬防止に努めながら確実に服薬を確認している。また、内服薬の容量等の変更時には、状況観察も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯物干し畳み・モップ掛け等を中心に役割を持たせ無理のないように実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事を計画したり駐車場や施設周辺をご家族様などと散歩をしている。	桜、つつじ、あじさいなどの花見や、リンゴ狩りに行くなど、季節を感じられるドライブや外食の計画をたて、福祉車両を使いユニットごとに出かけている。また職員は日頃、事業所の敷地内を利用者と一緒に散歩しながら、近くにある小学校の子どもの様子や草花を見て気分転換を図っている。個別の外出や買い物は来所した家族にお願いしている。	今年度の目標として、外出する機会を増やすことが挙げられ、「利用者と共に食材の買い出しに行く、行きたい所をリサーチして月に一度は外出する」などの取り組みを予定していたが、実施できていない。今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意が得られる方は、少額のお金を所持したり施設側に預けたりしており散髪や日用品の購入などに利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などからの電話を受けて頂いたり個人持ちの携帯電話で自由に話しているご利用者様もいる。手紙やはがきのやり取りをしているご利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に生花やご利用者様の作品や行事の写真を飾っている。室内の温度などを換気などして調節している。	居間は天井が高く、中庭から入る光で明るく開放的な空間になっており、共有スペースは床暖房、窓はペアガラスになっている。キッチンが居室、浴室、トイレからの利用者の出入りが見えやすい場所に位置している。感染症予防もかねて加湿器が設置され朝には共有スペースや居室の窓を開け空気の入れ替えを行っている。ほとんどの利用者は居間でゆったりとした時間を過ごしている。壁には行事の際の写真や塗り絵など利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にテレビ・ソファがあるので仲良しのご利用者様同士で談笑したり一人でゆったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を持ち込んだり家族写真(旦那様)を飾っている。ご家族様と相談しながら居室内の配置をしている。	全居室にエアコン、ベッド、ナースコール、車いすでも使えるワンタッチ水栓の洗面台が設置され、どの居室も高さのある掃き出し窓から光が入るように工夫されている。各自好みのたんすや衣装ケース、テレビなどを持ち込んでおり、花や位牌を飾っている利用者もいる。季節に応じた衣替えは家族にお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所や居室は、分かりやすいように目印をつけたり利用者様の様子を見ながら職員間で話し合い安全に過ごせる工夫をしている。		